

日本語要約・臨床解説

夜間の哺乳びん使用とう蝕：期間だけでなく、生活背景も聞く。

24か月を超える継続や夜間使用で、う蝕の重症度との関連が強まる傾向。ただし証拠の確実性は低〜非常に低。

予防歯科 / システマティックレビュー

12研究、71か月以下の6,955人。

研究デザインと対象の違いを踏まえて解釈。

01 研究の要点

目的

哺乳びんの使用期間と夜間使用が、早期小児う蝕の有病・重症度に関連するかを調べた。

方法

2026年5月まで検索し、前向きコホート2件と横断研究10件、計6,955人を評価した。

結果

1歳までの使用は重症度増加と関連しなかった一方、12か月を超える継続で増加傾向があり、24か月超では一貫した関連を認めた。夜間使用で関連がさらに強まる傾向だった。

結論

長期・夜間の哺乳びん使用は相談時に確認したい要素。ただし観察研究のため、使用中止だけの予防効果を確定できない。

読み取れること

- 評価したのは哺乳びんで、母乳育児一般の研究ではない。
- 24か月という区分は、個人の安全・危険を分ける境界ではない。
- 使用期間のほか、内容物や頻度などの影響も考える。

02 臨床で考える

保護者を責めずに、夜間の習慣と変えられる点を相談できるか。

1. 哺乳びんの中身、夜間の頻度、寝かしつけと清掃の流れを具体的に聞き取り、家庭の事情と一緒に整理する。
2. 変更を相談する場合は、小児の栄養や発達に関わる事情も考え、必要に応じて小児科などと連携する。
3. 現在のう蝕所見と他のリスク要因を確認し、哺乳びんの期間だけで予防計画を決めない。

栄養上の必要性を確認せず、画一的な授乳制限を勧める根拠にはならない。

臨床で深く読む

原著の報告と編集上の解釈を区別した解説です。AI編集・歯科医師未監修。

夜間の哺乳瓶使用は、使用期間と合わせて尋ねたい関連因子である。

長期間、とくに24か月を超える哺乳瓶使用と夜間使用は、乳幼児う蝕の重症度との関連が示された。ただし観察研究で、著者の確実性評価は低い〜非常に低い。特定の月齢を安全・危険の絶対的境界にするデータではない。

対象

71か月以下の子ども6,955人を含む12研究。前向きコホート2研究、横断研究10研究。

介入・評価対象

哺乳瓶使用の継続期間と夜間の使用。

比較

使用期間や夜間使用の有無が異なる集団。各研究で曝露の定義が異なる。

評価項目

dmft、dmfs、dft、deftなどで評価した乳幼児う蝕。

追跡・評価時点

検索は2026年5月まで。研究ごとの追跡期間は抄録に記載なし。

結果の大きさを、診療の視点で読む

使用期間

原著の報告：生後1年以内に限った使用では重症度増加と関連せず、12か月超で増加傾向、24か月超では一貫した重症度増加が報告された。

臨床での読み方：原著の期間別傾向であり、因果効果や個人の発症時期を示さない。

夜間使用

原著の報告：夜間使用がリスクをさらに強め、とくに24か月超で関連が目立つと記載された。

臨床での読み方：統合RRや絶対発症率は抄録にない。「何倍危険」といった説明を追加しない。

目の前の患者に、どこまで重なるか

研究に近い条件：乳幼児の生活習慣を聞かるときに、哺乳瓶の有無だけでなく継続期間と夜間の使用を分けて把握する場面。

未確定の範囲：飲料内容や頻度ごとの効果、母乳や他の授乳方法への置き換え、生活習慣を変えた場合の減少量はこの抄録では確定しない。

時間の前後関係

12研究中10研究は横断研究である。使用と重症度を同時に捉えた結果だけで、経過中にどちらが先だったかは十分に分からない。

曝露定義と交絡

期間や夜間使用の定義にばらつきがあり、残余交絡が限界とされる。家族の一つの行動だけをう蝕の原因と決めつけない。

自院で検討するなら

- ・問診票を「使用あり・なし」の二択で終えず、いつまで、夜間にも使うかを分けて記録する。
- ・月齢の区切りを示す場合は研究で使われた区分と明示し、その線より前なら安全と受け取られないよう説明を確認する。

患者さんへの説明例

哺乳瓶を長く使うことや夜間の使用と、むし歯の重さに関連がみられた研究があります。ただし、ある月齢までは必ず安全という境界が分かったわけではありません。ご家庭の習慣を責めるためではなく、使用する時間や期間を一緒に確認し、今のお口の状態を考える材料にします。

患者の希望と治療条件に合わせ、歯科医師が内容を検討するための研究説明例です。個別の治療結果を保証するものではありません。

同僚と考える問い

哺乳瓶使用の期間と夜間使用を分けて聞くことで、家族の負担を増やさずに把握できた具体的な生活背景はありますか？

コメントする：<https://nakanoyuyadental.com/articles/night-bottle-feeding-caries#comments>

臨床解説の確認資料：原文抄録（PubMed）（Methods / Results / Conclusions（質的研究は主題・解釈を含む））
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42684603/>

研究の限界・解釈上の注意

- ・10件が横断研究で、交絡が残る。
- ・使用の定義が不均一で、証拠の確実性は低〜非常に低。
- ・抄録には統合リスク比がなく、個人の増加率を数値で説明できない。
- ・原文抄録を確認。全文の方法・補足資料は未確認。

03 原著・資料の範囲

Prolonged and night-time bottle-feeding in relation to early childhood caries: a systematic review.

Alevra M, Lygidakis NA, Lygidakis NN.

European archives of paediatric dentistry : official journal of the European Academy of Paediatric Dentistry | 原著公開日：2026-09-02

PMID : 42684603 | DOI : 10.1007/s40368-026-01230-x

PubMedで原文抄録 : <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42684603/>

出版社の原著 : <https://doi.org/10.1007/s40368-026-01230-x>

資料確認・作成日 : 2026-09-15

収録範囲 : 既存の日本語要約と編集上の臨床解説。原著全文の翻訳ではありません。確認範囲と未確認事項は上記の限界欄に記載しています。

免責事項 : AI作成・歯科医師による監修未実施。医療者の学習用資料であり、個別患者への診断・治療指示ではありません。臨床判断に用いる前に原著と最新の診療指針を確認してください。